

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105354		
法人名	松山医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム なないろ		
所在地	松山市立花二丁目2番15号 (電話) 089-915-7727		
管理者	平野 小百合		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 4 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 15 日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高	95 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅近くの住宅地に建つ建物の2階部分がホームである。1階は同法人のデイサービスで、入居の前後、相互の連携を図っている。地域の母体組合員の要望で設立したホームは、地域との交流や協力が好意的・積極的に図られ、地域密着型サービスの役割を担っている。母体でもある協力病院はホームから見える場所に位置し、24時間の連携体制が取られており、医療面でも安心できる。職員の研修を計画的に勧め、サービスの向上に繋げている。職員の異動は殆どなく、馴染みの関係が築かれている。管理者、職員は利用者との会話を楽しみ、共にゆったりと過ごし

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

評価の結果を活かし、利用者の意向や思いを把握しケアに活かす「意欲支援計画書」の作成、面会簿の単票式への変更、防火訓練計画書の作成の3点に取り組み、サービスの質の向上を図っている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員全員で取り組み、管理者がまとめ、意見の異なる点を再度ミーティングで話し合い、検討した上で作成している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市職員、地域住民代表者、利用者とその家族等をメンバーに、2か月毎に開催している。自己及び外部評価について、ホームの取り組み等を議題としてあげ、利用者の意見や発言を中心に参加者とも意見交換があり、活発な会議となっている。災害対策やホーム行事への協力についても会議を活かした取り組みが進んでいる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

重要事項説明書に苦情申立て先を明示し、玄関にも意見箱を設置して対応している。訪問時には積極的に声をかけるなど、家族が意見や要望を出しやすいように関係づくりに配慮している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

町内会、老人会に入会し、敬老会や地方祭に参加している。祭りでは神輿の休憩所にホームの駐車場を提供しており、また災害時の避難場所ともなっている。法人の納涼会や、ホーム主催の忘年会に地域の方に参加してもらうなど、地域住民の要望で設立したホームとしての役割を理解したうえで積極的に交流し、連携を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 平野小百合

評価完了日 平成 20 年 5 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者のほとんどが、元々の地域住民で、外出してもなじみの環境である。事業所の母体は医療生活協同組合で50年以上の歴史があり、組合員・地域の住民の要請で開設になった経緯があり、地域の方との交流を大切にしながら、頼られる存在を目指している。理念にも「住み慣れた町で安心して楽しく、生きがいを感じる生活を支援します。」としている。		
			(外部評価) 設立当初に職員全員で話し合い作成し、その後利用者を含めて当初の理念を再確認してつくりあげている。また、今年度のショート目標を作成しようとしている。しかし、玄関・リビングに掲示している理念の字が小さく分かりにくい。	※	利用者の墨書で理念を掲示することや、基本理念をふまえた具体的、短期目標を作成することを予定しているので、今後の取り組みに期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) グループホームの理念は開設時に職員間で話し合い考えたものである。定期的に理念に合った支援が出来ているか話し合うようにしているが、現在の所変更はした事が無い。開設時から働いている職員がほとんどで、理念に添った介護の実践に努力している。	※	理念の変更は無くても、毎年、各職員の目標や年間の目標などを掲げて理念の実践により具体的に近づいて行きたい。
			(外部評価) 管理者と職員は、毎月のミーティングで理念の振り返りを行い、利用者の会話からも理念の反映ができていないかを観察し、実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を通じてお話ししたり、グループホームを作成したり、介護教室を開催できる等のお知らせをしている。	※	最近では運営推進会議の予定を早めにお知らせして参加して頂けるように働きかけている。予定が合えば参加して頂ける内諾をえている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の方々は、利用者や職員の顔を覚えて下さり、あいさつをして下さる。隣人は家庭菜園で出来た野菜を差し入れて下さったり、許可を得て隣のヨモギを利用者と摘ませて頂きおやつ時間にヨモギ餅や蒸しパン等を作り隣人におすそ分けをするなどの交流をおこなっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 民政委員さん・町内会長さんの協力があり、敬老会に参加させて頂いたり、地方祭にはお神輿の休憩場所を提供したりしている。近くの保育園よりも訪問があり、利用者の方々は喜んでおられる。地域に住まれていた方が多く、日頃より、利用者の知人の方々も訪問して下さる。 (外部評価) 町内会、老人会に入会し、広報誌を配布したり、敬老会や地方祭などの地域活動に参加し、ホームを神輿の休憩所に提供している。また、運営法人とともに行う納涼会や忘年会に地域住民に参加してもらうなど、地域の一員として友好的な付き合いの中で積極的な交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 経営母体では地域の皆様に役立てるよう定期的に講習会を行ったり、機関紙を発行して役立てるよう働きかけている。グループホームでも、近隣の方の介護相談に応じるようにしている。必要ときは、関連の居宅支援事業所の応援をもらっている。介護教室を開く用意もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、運営者も参加してもらい、全面的に支援を得られるよう働きかけて貰っている。外部評価は職員全員が全項目について考え管理者が意見をまとめて自己評価を記載した。日頃の介護の振り返りを行う良い機会となった。 (外部評価) 評価の意義を理解したうえで職員全員が自己評価に取り組み、評価の異なる部分について話し合い、管理者がまとめている。外部評価結果を話し合い、結果を活かして利用者の思いの把握や面会簿の工夫、防火訓練計画書作成などの改善に取り組んでいる。	※	前回はそうであったが、外部評価後には職員全員で見直し、更に改善点を見つけていくようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議には、交代で利用者に参加して頂きグループホームを利用しての意見を述べて頂くようにしている。意見を最も重要と考え、話し合っていくようにしている。利用者の意見が出易い様に、リラックスした雰囲気が出るように心掛けている。前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項は経過を報告し、改善して行く様にしていく。 (外部評価) 市職員、地域代表者、同業者及び利用者とその家族等をメンバーとし、2か月毎に開催している。外部評価の公表、ホームの近況報告、ホーム行事等を議題とし、利用者の発言を中心に参加者と活発な意見交換をして、出された意見をサービスの向上に活かしている。しかし、参加メンバーがやや固定的である。	※	幅広い方面からの参加者を募り、会議の更なる充実を図ることを期待する。議事録に発言者の立場を記載すると発言内容がより深く理解できるので、再考を望む。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回程度、東・拓南地区グループホーム連絡会に参加し、市町村担当者や地域包括支援センター職員と研修を行ったり、意見を交換したりしている。市職員の研修の場としても活用してもらったり、必要時は相談し協力を得ることが出来ている。 (外部評価) 同業者との連絡会で市担当者や地域包括支援センター職員と研修や意見を交換したり、ホームを市職員の研修の場に提供して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は、保険者や社会福祉協議会が行う研修に参加し、理解を深めるように努力している。研修に参加し得た知識は、月一回のミーティング時に発表して職員全員が理解を深められるよう努力している。成年後見人制度を利用している利用者は現在いないが、必要時は支援して行きたい。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は、保険者や社会福祉協議会が行う研修に参加し、理解を深めるように努力している。研修に参加し得た知識は、月一回のミーティング時に発表して職員全員が理解を深められるよう努力している。面会の方やボランティアの方の出入りも自由で、敵に開放的な環境に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に時間をゆったりとり、丁寧に説明している。最近、契約更新の必要があり、再度、説明を行ったが、改めて確認し直す事もあった。グループホームには、いつでも、運営規程や重要説明事項も確認できるように掲示している。医療連携に対しては別に確認書を作成している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者に不満・苦情があった時は、丁寧に話を聞き、解決出来る事はすぐに対応している。職員間だけで解決するのではなく、お茶の時間等に問題を提起し、利用者の多くが納得出来る方法を確認して、改善している。利用者同士の自治力を高めていけたらと思って対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりに関しては面会時に職員より報告したり、悪くなった所を報告するのではなく、現在楽しみにされている事や、嬉しそうに表情をされる場面を報告している。希望されるご家族には、楽しそうにされている様子をメールで送信させて頂いている。健康・金銭については定期報告している。 <hr/> (外部評価) 利用者の健康状態や金銭出納簿などについて、家族の訪問時やメール及び電話で定期的に、またいろいろな機会を捉えて利用者が調子のよい時とあわせて知らせ、家族とともに喜びを共有し、安心につなげている。また、季刊のホーム便りでも暮らしぶりを報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の相談窓口で連絡する方法をグループホームの意見箱の近くや、掲示板に明示している。グループホームの意見箱には、開設以来投書はないが、日頃から、ご家族とのコミュニケーションを大切に、気軽に苦情・不満をお伺いできる関係を作りたい。 <hr/> (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明示し、またホーム入口に意見箱を置いて対応している。家族との良好な関係づくりを日頃から心がけ、訪問時にも意見や要望を出しやすいよう配慮している。	※	苦情・不満でなくても、説明不足を感じた時は、グループホームだより等を利用し理解して頂けるように努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見などは管理者が取りまとめ、運営者と相談できる体制がある。運営者もグループホームを随時訪問したり、定期的に運営推進会議に参加したり、職員から直接意見を述べても協力体制をとってくれる。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じ、その都度対応している。利用者の急変時、入浴希望者が多い日、外出予定日等人員の配置を手厚くしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営者はグループホームにおける馴染みの関係を理解し、移動は最低限としている。開設時から勤務している職員がほとんどである。 <hr/> (外部評価) 開設以来の異動や離職は1名と少なく、馴染みの関係の継続を支援している。職員数も充実しており、スムーズに業務連携ができています。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新職員が入った場合は、職員配置を厚くして、十分な研修期間を設けている。グループホーム内での研修や運営母体での研修を受けている。全職員、希望する勉強会や研修にも随時参加している。研修時も給与が出るように運営者も配慮し、職員が意欲を持って働ける環境を作っている。 <hr/> (外部評価) 県グループホーム連絡協議会の研修や、法人での研修の情報を職員全員に知らせ、希望により公平に受講できるよう計画的に勤務中での受講機会を確保している。受講者は内容をミーティングで報告し、報告書を共有している。内部研修も必要に応じて随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 連絡会や研修でネットワークを広げるよう心掛けている。運営推進会議に他のグループホームの職員の方に参加して頂いたり、随時、他のグループホーム職員の方、地域包括支援センターや居宅支援事業所の職員の皆さんも訪問して下さる。 (外部評価) 地区グループホーム連絡会に所属し、運営推進協議会に参加し合ったり、訪問や見学も受け入れている。入居希望者に対する対応も、連絡会のネットワークを活用してスムーズに図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者が必要と思った場合は運営者に随時報告している。運営者は協力的で、徐々にであるが待遇面でも向上している。介護の基本として、介護者が、穏やかな精神状態が保てるよう勤務希望は出来るだけ叶うようにしている。職員の連携は取れており、笑顔の多い職場だと思う。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者より、資格が取得できる研修があれば紹介している。資格取得にかかる費用についても個人の負担が少なくなるように運営者からも支援がある。福利厚生についても充実している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所前には居宅に訪問して、住まわれていた環境を把握し対応している。フェースシート・アセスメントを入所前から作成し、スタッフ全員が利用者の不安を緩和する働きかけが出来るように心掛けている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 近隣の方や職員などから相談者を紹介される事が多い。出来るだけ時間を作り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用相談時に家族の負担が大きく、管理者が急速な対応が、必要と感じた時は、適切な介護サービスが利用できるように居宅支援事業所や施設をご紹介している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族より相談を受けて、必要と感じれば、出来る限りご本人に来所して貰いゆっくり過ごして頂く時間を作ったり、必要な方は同じ施設内にあるデイサービスを利用して頂いている。グループホームはデイサービス利用中の待機者を把握して対応している。 (外部評価) 利用前に本人に訪問してもらい一緒に過ごしたり、1階のデイサービスで過ごしてもらうなど、家族と相談しながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) お茶の時間等に、昔の様子をお伺いしたり、暮らしの知恵を教えて頂いたり、職員の人間としての成長の場となっている。職員は出来ない所を支援するという視点を持ち援助し、一方的な支援にならないよう心掛けている。 (外部評価) 職員は、利用者のできない部分を支援するという視点で接し、食後やお茶時の会話を楽しみながら、昔の諺や言葉を教えてもらったり、知恵を授けたりしている。夜勤の際などはねぎらいの言葉をかけてもらっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 積極的にご家族と共に行える行事を企画している。忘年会・夕涼み会等ご家族も参加して頂き、職員の日頃の思いなども理解していただける場となっている。外出行事の時は、車椅子を押して下さる協力や、食事介助等、介護に参加して下さる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者にとっての家族や知人への思い、又、その人の利用者のへの思いを暮らしの情報シート(支えてくれる人への思い)にまとめ記載し、今までの関わりを理解するよう心掛けている。会いたい方に会えるようにご家族の協力を得て支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりのお話を伺い、馴染みの人を把握するようにしている。馴染みの美容院を利用したり、行きつけの店に買い物に行ったり、友人への挨拶状を書くお手伝いをしたり、家での生活上の延長を意識している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 毎日、食事の時など共有の時間を多く過ごし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。話の合う利用者どうして肩を揉み合ったり、散歩に出かけたり楽しく過ごせる時間を作るようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了された方とも時折連絡を取るようにしている。居宅の担当ケアマネにも経過を連絡したり、運営推進会議に参加して貰ったり、訪問してもらう事も多い。介護サービス事業者職員や入所されていた老健施設の職員さんも訪問して下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 昨年より、意欲支援計画書を作成し、一人ひとりの希望、願いを汲み取り願いが叶うように支援するように支援している。映画を見たい・墓参りがしたい・しばらく会えていない家族に会いたい・花を育てたい等、利用者の願いを大切にし意欲がある生活を支援している。 (外部評価) 意欲支援計画書を作成し、一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。困難な場合は、本人と家族、管理者と担当職員の四者での話し合いの中で、本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人はもちろん、ご家族・居宅の担当ケアマネ・介護サービス担当者等の協力を得て、馴染みの生活の様子を伺うようにしている。利用者別に、暮らしぶりや思いの年表を作成し職員が把握し易いようにまとめている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズムを大切にしている。基本的な一日の流れはあるが、その日の体調に合わせて支援を行うようにしている。部屋で時代劇チャンネルを見られたり、カセットで歌を聴かれたり、それぞれのペースを大切に過ごせる支援を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に一度は、利用者・ご家族・担当者・計画作成者で介護の方向性を、前回の計画を実行しての経過を報告しから話し合うようにしている。修正が有る場合はその場で変更。無い場合は確認の印を頂く。意見やアイデアが出た場合メモし次回に取り組んだ成果を報告する。 (外部評価) 3か月毎に利用者、家族、担当職員、管理者が話し合い、それぞれの思いや意見を反映させたものを、毎月のミーティングで担当職員を中心に意見交換やモニタリングを行い、それらを反映した介護計画を作成している。		職員はチームを組み受け持ちのケアについて検討しミーティング時に話し合いケアの方向性を確認するようにしている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画は設定された期間に見直し出来るように心掛けている。利用者の状況が急に変わった時は、取り合えず申し送りノート等に記入し対応しているが、計画を修正するには時間がかかってしまっている。 (外部評価) 3か月毎の定期的見直しを行うとともに、利用者の状態に応じてその都度見直しを行い、本人・家族とも話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や計画に沿って実施した事・結果・気づきを細かく記載するように心掛けているが、実践した事ばかり記載してしまったり、職員間でも記載内容に差がある。研修を重ねて、ケアプランに反映した内容に行きたい。記録用紙は記入者し易く改善を続けている。	※	職員の中で検討委員を作り記録の改善を行う様にしている。勉強会等を開き職員の差を無くして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて随時、受診介助を行っている。家族の状況で、葬儀や法事への外出支援や里帰り、墓参りへの外出介助も行っている。必要な場合は、家族のホームへの宿泊等に対応出来るようにしている。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じて法事や葬儀への同行、里帰りを計画するなど、柔軟に対応している。家族の宿泊も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民政委員さんは開設前より協力して頂いている。運営推進会議にも毎回、参加して頂き協力を得ている。ボランティアの受け入れも積極的に行って継続出来ている。まもる君の家として協力している。消防署には定期的に避難訓練に協力して頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の居宅での担当ケアマネとの連携を取るように心掛けている。点滴や医療行為が必要になった場合は、協力病院の医師や訪問看護師が対応してくれる。訪問看護師は日頃から訪問して様子を確認してくれている。必要な方には訪問で理美容のサービスを利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には毎回地域包括支援センターの職員に参加して貰っている。2ヶ月に1回程度は連絡会を持ち情報の交換・勉強会等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医は本人・ご家族に相談し今までの経過を大切に、決めていく。主治医が24時間の体制がとれていない場合は協力病院がサポートしてくれている。 (外部評価) 本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診介助を行い、経過を報告している。かかりつけ医の24時間体制が取れていない場合は、母体病院がサポートしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 日頃は、かかりつけの内科医師に相談している。内科医や介護職員が必要と思ったときは認知症外来のある総合病院を受診出来るようにしている。認知症の専門的研修には積極的に参加するようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師を職員として配置している。職員は母体の病院での専門的な研修に参加したり訪問看護と連携を取るようになっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時にはグループホームでの様子を記載したサマリーを提出してリハビリテーションが少なくなるように支援している。入院中は面会に行き病院関係者と積極的に情報交換をするようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期のあり方については確認書を作成し、本人・家族の方針を確認している。援助記録を作成し、医師より受けた説明内容、家族との話の内容を記載し、スタッフが流れを確認できるように支援している。 (外部評価) 入居時に重度化や終末期のあり方について、本人及び家族と話し合っている。医療連携確認書を作成し、申し送りノートの情報とあわせて繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。エンゼルマニュアルを作成し、重度化や終末期におけるケアのあり方の研修を実施し、支援につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 「医療連携確認書」「看取りに対する指針」「看取りの介護マニュアル」「援助記録」等を利用し、月1回のミーティング時に検討や準備を行っている。必要時はかかりつけ医より介護職員にも具体的な援助内容も指導できるようにしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他のグループホームに移られたり、在宅に戻られた方はいらっしゃらないがダメージが少なくなるような支援を提供していきたい。外泊時は家族に介護のポイント等を説明し、利用者・ご家族の負担が少なくなるように心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員は利用者の尊厳を重視した対応が出来るよう、研修・経験をつむようにしている。書類はシュレッダーで処分している。以前は面会簿を利用していたが、現在は個別で記入できる用紙を使用している。グループホーム便りでは、利用者・ご家族の許可を得て写真を掲載し、仁シヤルを使用している。 (外部評価) 職員はプライバシーに関する研修を受講し、経験を積みながらプライバシー確保の重要性を認識して日々のケアに努めている。また、前回評価を受けて面会簿を個別記入の形式に改善している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意欲を引き出す為の取り組みを、積極的に行っている。担当者が、定期的に意欲支援を計画し、実践に向けて、全職員が協力している。家族にも適宜、計画を相談したり、報告をしたりしている。		実践した経過を写真を撮り、まとめている。利用者・職員共に次の意欲支援に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 予定は利用者と相談し決定するように心掛けている。昼食後に声を掛けて、外出にお誘いしたり、入浴を拒否される方には、毎日声をかけたり、時間をおいて声を掛けたり工夫をしている。 (外部評価) 1日の基本的な流れの中で、その日の予定を相談しながら、一人ひとりのペースを優先したその人らしい暮らしを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 起床時、利用者に確認しながら、更衣を介助している。着物を着続けておられる方もいらしゃる。サイズを合う様に工夫している。昔、馴染みの美容室を利用される方や職員が髪染めをして差し上げている方等それぞれのおしゃれを支援している。マニキュアを気に入っている方も多い。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は利用者の大きな楽しみである。利用者の希望に応じて献立を考える工夫を行っている。管理栄養士も協力してくれ献立のアドバイスや介護食の紹介を行っている。利用者の疾病に合わせて、糖尿病食・塩分制限食等にも対応している。利用者からは食事がおいしいと評価して貰っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞いて献立に取り入れ、利用者と職員と一緒に準備をして、同じテーブルを囲み、和やかに会話を楽しみながら一緒に食事している。食後もしばらくは席を立たず、利用者と職員と一緒に雑談をしてゆったりと過ごしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品の制限はしていない。お酒は希望があれば、お出ししたり、行事の特は準備しておく等の対応をしている。支障がない場合はおやつも自分の部屋で自由に召し上がっている。煙草も喫煙場所を設け制限はしていない。但し、ライターを決めた位置に置いたり等の安全の工夫はしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々に排泄に対するマニュアルを作成している。失禁の多い利用者には時間に誘導したりなどの工夫を行う様になっている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者と相談して、なるべく全員が満足するような週間予定を決めているが、体調・気分などに合わせて変更できるようにしている。週に3回以上の入浴が出来るようにしている。利用者の多くは週4回程度の入浴をされている。入浴拒否をされる利用者は職員の連携で上手く対応出来る様になった。 (外部評価) 週4回の午後を基本にしているが、時間を利用者と相談しながら希望やタイミングに合った入浴を支援している。苦手な利用者には職員が連携して声かけを工夫するなど、楽しむことができるよう対応に配慮している。	※	今の所夜間の入浴希望はないが、希望があれば対応して行きたい。同性介護に関しても、必要と判断すれば、対応できる。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく、日中の活動を多くして、生活のリズムを整える支援を行うようにしたり、寝つきが良くなるように、飲み物を用意したり話相手となったり工夫している。就寝の時間は決めていない。安定剤等に頼るような支援は避けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者それぞれの趣味を大切に、支援している。映画鑑賞・園芸・ビーズ作り・日舞など個々に合わせて支援。月1回ボランティアでお花教室を開催しているが、進んで参加される方がほとんどで喜ばれている。 (外部評価) 洗濯物たたみや園芸など、利用者の力や興味を活かして相談しながら役割を担ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。一人ひとりの趣味を大切に、映画鑑賞やビーズ作りを楽しみ、歌や日舞などを発揮できるよう支援している。毎月、ボランティアから生け花を習ったり、夏祭りへの参加、動物園や菊花展などの行事を計画し、気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の状況・ご家族の状況を考え、利用者の能力に応じて自己管理をしている方、グループホームでお預かりしている方等、多様に対応している。自己管理をされている方は、買い物を楽しんでいただけるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 基本的には一人ひとりの希望により、外出への支援をおこなっている。外出チェックリストを作成し、引きこもりがちになってないか確認している。月に一回は全員で外出できる機会を作ったり、職員から提案して、少人数で花を見に出かけたり、買い物に行ったりして外出を支援している。 (外部評価) 一人ひとりの希望を基本に、近隣への散歩や花を見に出かけたり買い物に行くなどしている。外出チェック表を作成して、一人ひとりが月1回は戸外に出かけられるよう支援している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者個々に要望をお伺いし、対応している。映画・墓参り自宅・馴染みの店など出かける支援を行っている。職員だけの対応が難しい場合は、ご家族に協力して頂き要望を叶えられる様にしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	(自己評価) 面会の期間が空いたときなどは、職員からお電話を掛け利用者に代わったりしている。お誕生会の様子・年賀状や母の日の贈り物に対するお礼状などは、日頃の様子のお写真を印刷し、書ける方はメッセージを添えてもらいお返事を出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 地域に住まわれていた方が多いので、友人が尋ねて来てくださる方も多い。ゆっくり話して頂ける様にお茶やお菓子などをお出ししたりしている。職員も訪問して下さる方を歓迎して居心地の良い空間作りを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 移動や歩行に見守りや介助が必要な方でも安全が確保できるように、介護職員の配置を多くしている。当グループホームの利用者で抗精神薬を服薬されている方は居ない。開設以来拘束はしたことは無い。ミーティングで自覚しない拘束は無いか随時確認している。研修参加も行っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) グループホームの玄関の鍵はかけていない。利用者が出て行きたい様子を感じた時は職員の連携プレーで事故を防げるようにしている。利用者が迷って出て行きそうになった場合はヒヤリ・ハット等を作成し、どの様な時に事故が起き易いか考察し、事故を未然に防ぐ工夫を行っている。 (外部評価) ホームは建物の2階にあり、日中は鍵をかけず、見守りや声かけで安全を確保している。安全面に配慮し、夕方には1階表玄関に施錠している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者を見守りやすい位置に職員がいるように心掛けている。職員間で連携をとり、ケアのため居室に入る時は、見守り出来る職員に合図して個別ケアを行なうようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせて、必要な物品を把握し、物品の位置・管理方法を決めている。鍵などを持つことが危ないと判断した場合はご家族に相談して方向性を決めている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 食事の形態・服薬状態等一人ひとりにあった援助の仕方を、月一回のミーティングにて確認。状態が変化して方法が変更になった場合は、申し送りやノートにて漏れの無いように気をつけている。リスクを評価し食事形態を栄養士に相談したり介護食・防火対策・服薬方法・リスクマネジメントの研修に参加。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 全ての職員が定期的に応急手当の勉強会に参加できるようにしている。夜間の急変時にはマニュアルを作成している。24時間体制で協力病院からのアドバイスが受けられるようにしている。グループホーム職員に看護師を配置し、常に連絡が取れる体制がある。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作成し、緊急の通報時にスムーズに対応出来るよう電話の横に通報内容を明示している。年に2回は利用者と共に消防署の応援をもらい避難訓練を行っている。近隣の方も協力的である。職員や利用者家族の自宅が近い方が多く、日頃から協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。防火訓練計画書や避難経路見取り図を作成し、夜間想定訓練も実施している。ホーム前の広い駐車場が地域の避難所に指定されており、避難には好条件である。地域の要望により設立したホームとして地域との連携は密であるが、実際の避難訓練はできていない。	※	災害時の安全対策は、ハード・ソフトあわせて整備されているが、地域住民の協力を得て実際の訓練を計画的に行い、更に万全を図るよう期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) ケアプランは出来るだけ、利用者・ご家族・担当職員・計画作成担当者が集まり話し合うようにしている。そのときに、予測されるリスクについて説明し、利用者・ご家族の納得を得られるようにしている。例としては、夜間に船をなめる事にどう対応するか等		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日頃の血圧値等を把握して些細な体調の変化を見逃さないように取り組んでいる。毎週協力病院の医師が訪問してくれるので、予測される症状や対応方法をアドバイスして貰っている。協力病院が近いので、早めに対応している。検査ゲーター等は看護師が気をつけるポイントを本を使い説明している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新しい薬が処方された場合は、薬剤情報書を利用し全職員が内容を確認できるようにしている。利用者が内服している薬剤は一覧表を作成して、内容が確認できるようにしている。看護師が必要と判断した場合は、使用法を職員に説明している。研修にも参加し知識を深める努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 日頃より、皆さんで体操を行ない、運動をするほか、食事内容に配慮し、食物繊維や水分摂取が十分に摂れる様にしている。日頃から、排泄チェック表を作成し便秘に対して、早めに対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは職員が見守り介助を行なっている。協力歯科医院のアドバイスを受け、義歯の手入れ、食事の形態等を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立については、協力病院の管理栄養士にアドバイスを受け、栄養のバランスが保てるように、配慮している。食事の摂取量は毎回チェックし記入している。食欲の低下がある場合、主治医や管理栄養士と相談し、補助食品等を利用している。水分についても、随時摂取できるように対応をしている。 (外部評価) 献立を協力医療機関の管理栄養士にチェックしてもらい、食事摂取量も記録して、栄養バランスと必要量の確保に努めている。水分摂取は、食事時以外にも数回喫茶タイムを設け、好みの飲み物で水分摂取できるように支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、実践している。母体に感染対策委員会を設置し、適切な対応が出来るよう連携を取っている。ディスポーザブルの手袋・マスクを利用するなど、予防に重視している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 購入した食材はその日の内に使い切るように心掛けている。まな板・布巾は消毒方法を決めて、毎日実践している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) グループホームでの近況が分るように利用者の写真を飾りったり、グループホームの行事予定やお願いを貼り出す様になっている。利用者が生けてくれたお花を飾ったりして、明るい雰囲気になるよう気をつけている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 環境整備を毎日行ない、快適な環境を保てるように気をつけている。居室に花や写真を飾ったりする等季節を感じられる支援を行っている。日差しが強すぎると感じた利用者の部屋は、ブラインドを取り付けるなど、利用者の立場になり、環境を整えるように気配りしている。 (外部評価) リビングは前面掃き出しのガラス戸で、太陽光はカーテンで調節している。観葉植物や利用者の活けた花等を配置している。台所とリビングはワンフロアを仕切り、利用者の顔が見え、調理の匂いが漂っている。トイレや浴室は清潔に保たれている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ほとんどの利用者それぞれに気に入った場所がある。趣味を持たれている方が多く、浪曲をお部屋で聞かれたり、ビーズを作ったり、気の合う仲間でお話したりされている。	※	限られたスペースなので、散歩に出るなど、気晴らしも出来る外出等を行って行きたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者やご家族と相談し、家族の写真、神棚、仏壇等を置いておられる方も多い。居室が狭いので、有効的に利用できるよう、タンスの中に棚に入れたり等工夫する。 (外部評価) 本人の希望を大切に、カセットテープ、家族の写真、仏壇や神棚などを持ち込み、本人が活けた花を飾るなど、それぞれの居室として居心地良く過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室・トイレは換気口が設置してある。気になる臭いは、すぐ消臭出来るように工夫している。全館に空調設備があり、利用者の体調に合わせて調整しているが、乾燥を伴うので、加湿器を設置したりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 鉄筋の2階建ての為、設置している流し台の高さが、若干高めとなっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者の理解度を考え、分り易い表札を作ったりしている。妄想の原因とならないように、環境整備をおこなったり、馴染みのものを置き、お部屋に個性が出るように気を付けている。混乱の要因となるようなものは、検討し対策を考え対応している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダに花やネギ・プチトマト等を植えて利用者に水遣りや植え変えを手伝ったりして貰い園芸を楽しんでいる。ベランダに喫煙場所を作りゆったりして貰えるよう花を飾ったりしている。	※	天気の良い日はお茶を楽しんだりする空間を作りたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない (自己評価)	昨年より、意欲支援計画書などを利用して、思いや願いを大切にした支援を行っている。現状に満足せず利用者全員の個々の思いや願いを大切に支援しつづけたい。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない (自己評価)	ほとんど毎食利用者・職員が全員一緒に食事を摂り、食後に今後の予定や思い出話等の会話を楽しむようにしている。利用者同士の交流や困っている事を相談する場を設けている。利用者が受診などで遅くなり全員揃わない日には、「寂しい。」との声が出る。大きな家族という意識が利用者職員にも芽生えているように思える。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない (自己評価)	利用者のペースを考え、起床や就寝の時間等は決めていないが、生活のペースが乱れないように環境を整え、充実した毎日が送れるための支援を心掛けている。最近では、自分の趣味の時間を持つ利用者もふえて、ビーズ作り、園芸、映画鑑賞、歌を歌う等それぞれに楽しんでおられる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない (自己評価)	面会に来られたご家族から、「玄関前から笑い声が聞こえ、いつも明るい雰囲気がある。」という言葉を受けた。利用者全員に笑顔が良く見られる。利用者の「100歳まで生きて市長さんに表彰して貰う。」との言葉に職員も励まされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない (自己評価)	月間で外出表を作成し、引きこもりになる利用者が無いように気を付けている。利用者が外出希望すればすぐに対応できるように心掛けてはいるが、常にと対応は出来ていない。月1回は全員で外出できるレクリエーションを企画している。個人でも、映画館・居宅・買い物など多様な対応をしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない (自己評価)	毎週協力病院の内科医師の往診がある。常勤の看護師を配置して連携を取っている。内科以外も職員が受診介助をし、適切な治療が受けられる。定期的な検診を受けられている。病状が変化した場合は、その都度家族に報告している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない (自己評価)	利用者の要望には、柔軟な対応を行っているが、対応が難しい場合は、理由を必ず説明し、ご家族にも同意を得るようにしている。対応に困った時は、利用者の皆さんと話し合い、改善策を出すようにしている。利用者の意志を大切に考えている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない (自己評価)	面会時にご家族に必ず声を掛け、近況を報告するようにしている。全職員が快い対応が出来るよう、職員研修でもご家族の心理等を勉強している。介護に苦慮していると言う報告ではなく、どの様なとき笑顔になられるというような家族の心理的な負担が少なくなる内容を心掛けている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない (自己評価)	家族の面会はほぼ毎日ある。地域に住まわれていた利用者がほとんどなので、友人が面会に来て下さる事もある。お茶などを出し、ゆったりお話しして頂ける様支援している。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議時は毎回民政委員さんや町内会長さんが参加して下さる。最近はお隣の方々にも運営推進会議の開催をお知らせするようにしている。今後、予定が合えば参加していただけたとの由。又、近くのグループホームの職員さんの参加もあり徐々に参加者が増えている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全職員に調査した。ほとんどの職員がいきいきと働いているとの回答であった。職員の定着率も高いと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	長年疎遠になっていたご家族との交流を図ったり、墓参りに同伴したり、身内の葬儀や法事に同行したり多様なサービスを取り入れる様に努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族からの相談は親身に受け止め対応するように心掛けている。利用者のご家族より新規利用者のご紹介を受けたり、知人の介護相談にのって欲しい等の要望にもお答えするようにしている。どの利用者のご家族も職員に対して優しく労をねぎらってくださる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

去年の外部評価後に、グループホームの改善課題として3つの事に着目していった。①一人ひとりの思いに対する気づきを、支援に生かせたらという思いから、意欲支援計画書を作成し、援助している。②面会簿ではご家族の方に対する配慮が少ないのではと考え、面会記録という形で、一枚一枚記入できるものに変更して頂いた。③緊急時の対応について定期的に訓練をしていくという事についても、消防署に協力して貰い、普通救命講習Ⅰの講習をほとんどの職員が受ける事が出来た。避難訓練も定期的に行えている。3項目とも、改善する事ができた。

グループホームなないろの理念は「住み慣れた町で、安心して、楽しく、生きがいを感じる生活を支援して行きます。」です。地域に住んで居られた方がほとんどで、居宅が近く、家族も頻りに面会に来て下さり、利用者の散歩の時にも「昔は、ここにお店があってね。」等利用者のなじみの環境の中です。管理者は入所する前の在宅での様子も把握している利用者の方が多く、家族的な立場になり生きがいを支援して行くように心掛けております。意欲の支援に向けて、色々な方法で意欲的に、介護に取り組んでおります。訪問された多くの方達が、「利用者の皆さんの表情が明るく、笑い声が聞こえる。」とおっしゃって下さいます。開設2年半を向かえて、今後は、利用者の加齢が進んで来ると思われるが、明るい笑顔の溢れるグループホームを目指して行きたいと思っております。